

オハイオ州 フィンドレー大学 奨学生レポート 8月

「決意」

皆さん初めまして。平成 26 年度奨学生の岡田梨永子と申します。この度、このような機会に恵まれたことに感謝いたします。これから来年の 4 月まで、毎月、私が体験したことや感じたことを交えながら、レポートを書いていきたいと思えます。

私は今年の 3 月に日本の大学を卒業し、8 月 12 日に日本を旅立ち、ここ、オハイオ州フィンドレー市に降り立ちました。私はここでフィンドレー大学の IELP (Intensive English Language Program) というコースを受けています。このコースは、留学生がフィンドレー大学の学部または大学院に入学するための英語力をつけるコースで、主にサウジアラビア人、日本人、中国人、韓国人、インド人が受けています。

フィンドレー大学のキャンパス内には、寮とタウンハウスと呼ばれるシェアハウスがいくつかあります。アメリカ人や留学生を含め、多くの学生がこの寮やタウンハウスで生活しています。私はその中のタウンハウスに合計 8 人で住んでいます。ハウスマイトは全員アメリカ人です。皆とてもフレンドリーで、



↑ 私の住むタウンハウス

「寂しかったらいつでも私の部屋に来て良いよ」と言ってくれました。キッチンや冷蔵庫、シャワーは共同ですが、アメリカ人は自分の部屋に小さな冷蔵庫をおいている場合が多いようです。

フィンドレー大学に到着してからの一週間はオリエンテーションやクラス分けのテストでめまぐるしく過ぎていきました。クラスではサウジアラビア人、インド人、中国人、スペイン人と接し、家ではアメリカ人と接するという、まさにグローバルな状況です。このような恵まれた環境でありながら、コミュニケーションがうまくとれないことを悔しく思います。また、オリエンテーションでは、いつか本当にこの英語がわかる日が来るのだろうかという疑問に思うほど、自分のリスニング力の無さに泣きそうになります。このような状況から一刻も早く脱出出来るよう、日々努力していきたいと思います。



↑学内で時々このようなものを見かけます。これは、道にチョークで書かれており、8/28の午後1時～4時の間にオールドメインという建物に行けばアイスクリームを無料でもらえるというお知らせです。